

らぬ。現在の政黨では財閥より黨費を貰つて居る關係で不可能である。此等の改正に邁進して居るのが皇道會である。市議、縣議、代議士の選挙に當りては從來の如く不道德な人を選んではならぬ。次に國防である。國防は國民の生活と經濟を離れては不可能である。烈國に於てはロシアが帝政時代よりの兩下政策を國策としタルダネスに出でんとしてトルコの防護に會ひ、次に支那、滿洲に手を染めた、而して朝鮮に迄手を延ばしたる爲、東洋平和確立の正義の下に日露戦争が起つたか、この正義の前には適せなかつた、最近滿洲の獨立するやロシアは本國と提携しウラジオに置く強力なる潜水艦は日本の大恐慌となつて居る、米國に於ては内にモンロー主義を唱へ東洋に對しては機會均等、門戶解放主義を取り、之が遂行には武力を以て進んで居る。ワシン

トン會議に於ける日本の七割主張は眞の國防よりして當然の要求であつた、然るに國民運動の不統一の爲に主力艦六割に切下げられた、其の缺陷を補ふ爲には八吋巡洋艦であつた、有力なるこの艦力を恐れ補助艦に制限を加へんとしたのか、ロンドン會議であつた、結果補助艦も六割に、潜水艦も削減されるの煮湯を飲まされた、海上權を失した時に日本は潰れる、國民生活の安定上國防は絶對的のものである、相手をして戦を挑ませざる所に眞の國防がある。次回の會議は想像であるが最高限度を定め互に怒感を感じざる程度の總噸數に依り其の範圍内で造ると言ふ案であると思ふ、舉國一致政府を支持し國防の確立を期せねばならぬ。